

◆ 博物館だより

◇平成20年度関西大学博物館 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	27	26	21	23	4	8	24	18	16	16	15	21	219
入館者数	2,523	1,934	645	639	1,394	201	414	1,135	158	171	42	280	9,536

◇平成19年度から北大阪にある48館・園の美術館・博物館・動物園などでネットワークを組み、さまざまな事業を行っています。平成20年度も文化庁からの委託をうけ、北大阪ミュージアム・ネットワークとして講演会・見学会や展示会を実施しました。経済の衰退や社会の流動化が急激にすすむ難しい時代ですが、それぞれの博物館・園の連携を活性化し、地域文化資源の整備・活用に積極的に取り組み、その成果を地域に発信していくための場所として、これからも北大阪ミュージアム・ネットワークの活動に参加していきたいと思えます。

◇11月17日（月）から22日（土）まで、関西大学博物館展示会「北摂の文化遺産」を本館第2展示室で開催しました。本展示会は、文化庁から委託をうけた北大阪ミュージアム・ネットワークの取り組みの一環として、従来の博物館実習展を拡大し実施したもので、実習生たちは「モノレール」「日世」「ガンバ大阪」「菊炭」「池田のがんがら火祭り」など、北摂地区にゆかりの深いテーマの5班に分かれて、地域の皆さんの協力を得ながら企画展示を行いました。762人の方がたにご覧いただきました。

◇博物館ホームページをリニューアルしました。博物館のイベント情報や資料紹介など充実したコンテンツでお届けいたします。<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/index.html>

◇4月1日（水）から5月17日（日）まで、「浪速の絵師 菅 楯彦の画業～職業婦人繪巻～」を開催します。本企画展は昨秋TV放映された「出張！なんでも鑑定団 in 関西大学」で高い評価を得た菅 楯彦画伯の『職業婦人繪巻』を、上田登志恵様と橋本知恵様からご寄贈いただき特別に展示するものです。「繪巻」は全長14メートルの大作で、電話交換手や美容師、看護婦のほか農作業や機織の風景など、市井に生きる女性たちの姿が表わされています。また、関西大学図書館所蔵の菅 楯彦作品なども展示し、大坂画壇の重鎮であり浪速の風俗をこよなく愛した画伯の作品の数々を紹介いたします。

・ ・ ・ 編集後記 ・ ・ ・

『阡陵』第58号をお届けいたします。今号は米田先生と黒田先生、宮武先生から玉稿をいただきました。さらに、本学文学研究科 青木氏、なにわ大阪文化遺産学センター研究員の中尾氏からの報告を掲載しております。ご執筆賜りました皆様に感謝申し上げます。また、本館学芸員の山口と石立から博物館見学調査についての報告をさせていただきました。

平成20年度は、上田登志恵様と橋本知恵様から菅 楯彦作「職業婦人繪巻」一巻と、羽間平安元理事長（現顧問）から千成瓢箪3竿23瓢、大門 博様から九頭神麿寺出土単弁蓮華文軒丸瓦一片をご寄贈いただきました。また、植田兼司様から石器図1巻と牽牛子塚古墳出土の夾紵棺破片6点を研究利用のため貸与いただきました。今後、博物館で充分活用していきたいと考えています。

表紙は、羽間顧問から、学校法人の理事改選ならびに新理事会の役員就任を記念して寄贈いただいた千成瓢箪のうちの1瓢です。千成瓢箪は秀吉の馬印で有名ですが、もともと関西大学には大学の象徴として千成瓢箪が伝わっており、慶事の際に酒器として利用されていたようです。戦中期に解体されたといわれ、現在ではその行方が不明でしたが、今回ご寄贈いただいたことにより、失われた関西大学のシンボルを取り戻すことができました。本館第2展示室に展示していますのでご覧ください。



九頭神麿寺出土
単弁蓮華文軒丸瓦